

第374医療群、患者ケアを効率化 374th Medical Group streamlines patient care

September 1, 2020

By Staff Sgt Ryann Holzapfel
374th Airlift Wing Public Affairs

8月28日、第374医療群は、現役軍人および軍属の患者医療の効率化を図るため、横田基地に置かれている2つの医療中隊を改編した。

横田基地内の将校クラブで行われた改編式では、第374医療群司令官アイリス・リーダム大佐が執行官を務め、第374空輸航空団司令官アンドリュー・キャンベル大佐の出席のもと、組織の改編が正式に承認された。

「2017年国防権限法 (NDAA) の一環として、議会は全ての空軍外科医長に、医療の準備態勢を強化することに焦点を当てながら、軍属の患者ケアを行う方法で、軍事医療施設を構成するモデルを考案するよう指示した」とリーダム大佐は述べた。

空軍全体では、NDAAは軍属、家族に質の高い医療を維持しつつ、現役軍人への増加している、個々の医療の向上を提供するために、50の軍事病院や診療所の再編が行われた。

横田基地では、NDAAの趣旨に従い、第374航空宇宙医療中隊は第374運用医療即応中隊に改称し、同中隊のプライマリケア従事者は、必要とする全ての現役軍人に医療を提供する。

また、第374医療運用中隊は第374健康管理運用中隊に改称し、同中隊のプライマリケア従事者は、軍属や子供の患者に優先的に医療を提供する。

名称とプライマリケア従事者が変更されたものの、この改編によって、第374医療群は横田の質の高い医療を提供し、それを向上させるためのより良い体制を整える。

「次の章に向け、過去と比較するのではなく、勇気をもって、大胆に未来を見据え、我々だけでなく次の世代のためにも、新しい未来を創って行こう。そして、これまでの団結を維持し、同じ熱意、プロフェッショナリズム、機敏性、そして革新性を持って、新しいメンバーと使命を受け入れよう」と式典の中で第374運用医療即応中隊司令カサンドラ・ギルバート中佐は述べた。



第374運用医療即応中隊 (374 OMRS)



第374健康管理運用中隊 (374 HOS)